

青嶺 Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

続 K君のこと

できません。フラフラになりながら、彼は部屋にあった自分のナイフで、自分の左腕を切りました。

お兄ちゃんは痛みが、禁断症状を忘れさせるだろうと考えて、自分でナイフを用意していたのです。少し和らいだものの、それでもなお幻や聞こえないはずの声、彼を襲ったそうです。彼はそのあと朦朧（もうろう）とする意識の中、出血の止まらなくなった左腕を止血するために焼けた釘をその傷跡にあてたそうです。

「先生……その時の傷がこれなんよ……Kは俺とちごうて優しい子なんよ……だけど弱い子なんよ……だから苦しんでほしくなかった、自分のせいのような気がして……」

そう言ってお兄ちゃんは声を立てずに泣きました。

お兄ちゃんはシンナーを止めてからは、その道から離れ、真面目に自分の好きな道を目指し、中学卒業後は仕事

を頑張っています。シンナーを止めることができて本当に良かった……と彼は後日僕にしみ言いました。

K君は、その後色々ありましたが、母親や兄の助けもありシンナーからは足を洗い、中学卒業後、大阪のラーメン屋に住み込みで働き、一昨年結婚し、今ではお父さんです。

大分たってから三人でお酒を飲んだとき、お兄ちゃんもK君も非常に穏やかで、今を頑張っているという自信に満ちた表情でした。これからも、自分の家庭を守り、頑張ってくれると信じています。

学校で薬物乱用防止教室があり、遠い記憶がよみがえりました。長いこと封印していたエピソードですが、人の心や体をおしばひシンナーや薬物の恐ろしさを知ってほしくて今回通信にのせています。皆さんには絶対に同じ思いをしてほしくありません。いや、絶対にさせません。